

くすり一口メモ

## 点眼薬の正しい使い方

点眼薬には抗菌薬、抗アレルギー薬、抗炎症薬、ビタミン類などがあり、無菌の外用剤です。近年は配合薬や点眼回数の少ない点眼薬が登場しました。点眼薬は正しい手順で用法・用量を守り、正確に点眼することにより治療効果が得られます。また、誤用や過量使用による副作用の防止や点眼液の汚染防止にもつながります。

点眼薬の効果を十分に発揮するためには、正しい点眼方法や保管方法、開封後の使用期限等を習得する必要があります。以下、点眼薬についての注意事項をまとめました。

### 【点眼方法の基本】

手をせっけんと流水でよく洗います。

(点眼の際、目や容器の先に手が触れることがあります。手には多くの雑菌が存在するため、これらの菌によって目や点眼液が汚染されないよう点眼前の手洗いを指導します。)

背もたれのあるイスに座り点眼しやすい体勢にします。

下まぶたを軽く引き、容器をなるべく直角にして点眼します。

点眼後はまぶたきをせず、まぶたを閉じ、あふれた点眼液を清潔なガーゼやティッシュでふき取ります。

そのまましばらく(約1~5分)まぶたを閉じるか、涙嚢部(目頭のやや鼻より)を指先で軽く押さえます。ただし、手術後に使用する場合は傷口に触れることがあるため、涙嚢部を押さえるのではなく、まぶたを閉じるだけにします。

(点眼後の閉瞼、涙嚢部圧迫は、全身性の副作用の軽減や十分な治療効果の発揮につながります。)

### 【間違った点眼方法】

間違った点眼方法として、以下のようなことが挙げられます。

間違った点眼方法	理由
容器の先をまぶたやまつげにつけて点眼する	眼脂や細菌などが容器に逆流し、点眼液の汚染につながる恐れがあります
点眼後にまぶたきをする	まぶたきすることで目から鼻に流れ出てしまい、鼻からのど、全身に移行し副作用が出ることも考えられます
目のまわりに落ちた点眼液を流し込んでいる	汚れや花粉、細菌など目のまわりの異物が目に入ってしまいます
1回に何滴も点眼している	薬液が目からあふれたり、目から鼻に流れ出たりして、よりよい効果は得られません
あふれた点眼液はそのままにしている	あふれ出た点眼液は接触皮膚炎の原因となることもあるため、清潔なガーゼやティッシュでふき取ります

### 【保管方法】

添付文書に指示のある場合はそれに従います。

(直射日光を避け、なるべく涼しい場所に保管するよう指導します。)

点眼後はしっかりとキャップをし、添付の投薬袋に入れて不潔にならないように注意します。

## [医療トピックス]

防虫剤を入れたタンスの中や開封した湿布薬を入れた救急箱などに点眼薬を一緒に入れないよう、揮発性の高いものとは分けて保管します。

(プラスチック製の点眼容器は気体を透過する特性を持っています。湿布薬や液状の消炎鎮痛剤(メントールやカンフルなどの芳香成分)、油性ペン(有機溶媒)、洋服の防虫剤(パラジクロロベンゼン)などには揮発性の高い成分が含まれており、容器を透過して点眼液に溶け込む可能性があります。湿布薬に含まれている芳香成分(メントール等)は、点眼容器を透過して点眼液に溶け込んでしまい、点眼液が目にしみる(刺激を感じる)可能性が考えられます。誤飲防止のため、乳幼児、小児の手の届かない所に保管します。

## 【その他注意事項】

懸濁性点眼薬は、よく振る。

2種類以上の点眼薬を使用する場合は、5分以上の間隔をあける。ただし、ゲル化する薬は10分以上間隔をあける。

懸濁性点眼液は、水に溶けにくく吸収されにくいものや点眼後にゲル化するものは最後に点眼する。

防腐剤の一種の塩化ベンザルコニウムはコンタクトレンズに吸着する。これにより、レンズと密着する角膜細胞のタンパク質が変性し、角膜上皮障害を引き起こす可能性がある。

レンズの性状に影響を与えることや角膜に傷が付くことがあるため、コンタクトレンズを外した後に点眼し、十分に時間(5~10分を目安)をあけて再度装着する。

## 【Q&A】

Q：点眼薬1本で何日くらい使用できますか？

A：点眼薬1滴は30~50 $\mu$ L(0.03~0.05mL)とされています。1滴あたり50 $\mu$ L(=0.05mL)とすると、1本5mLの点眼薬は約100滴となります。用法・用量が「1日2回、両眼に1滴」であれば、約25日分となります。

Q：開封後の使用期限はどのくらいですか？

A：点眼薬に記載されている使用期限は未開封の場合を示しています。添付文書に記載がない場合、医療用点眼薬の使用期限は1ヵ月を目安にしてください。ただし、開封後1ヵ月以内であっても、点眼液の中に浮遊物や濁り等が認められたら使用を中止するよう注意してください。

点眼後の薬液の移行には、結膜囊から眼外への溢出、涙点から鼻涙管への排出、眼組織への移行があります。以下については、薬液の移行が関係しています。

Q：点眼後に目から溢れてしまうのは、手技に問題がありますか？

A：点眼薬1滴は30~50 $\mu$ Lであるのに対し、結膜囊の最大保持容量は約30 $\mu$ Lであるため、正しく点眼しても過剰となった薬液は眼外へ溢れ出ます。

Q：点眼後に味がするのは気のせいですか？

A：点眼された薬液はまばたきにより涙液と混じりあい、大部分は涙液の流れと同様に涙点から涙囊を通過して鼻涙管へ排出され、その後口腔内へ移行することがあります。そのため、点眼後に苦みや甘みを感じるがあります。

Q：点眼薬の副作用は目にだけ出ますか？

A：眼組織に移行する薬液は角結膜を通過して眼球内部へ移行するものと、結膜や眼瞼の脈管系より全身循環に入るものがあります。後者により、局所治療薬である点眼薬の使用後に他の部位で副作用が生じることがあります。

点眼薬は間違った使い方をすると治療効果が落ちる可能性があります。正しい使い方を理解し実践することで、最大限の治療効果が得られます。

参考資料：参天製薬 服薬指導資料  
(鹿児島市医師会病院薬剤部 中木原由佳)